

一生勉強 一生青春

- 中学3年生として今やらなければならないことは -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめにー自己紹介を兼ねてー

(1) 自己紹介

仕事

- (ア) 株式会社開倫塾代表取締役社長
- (イ) マニー株式会社(手術用縫合針製造)社外取締役
- (ウ) 宇都宮大学大学院工学研究科客員教授

社会活動

- (ア) 経済同友会
- (イ) 開倫ユネスコ協会
- (ウ) 栃木県社会教育委員

執筆活動

- (ア) コラム(新聞、雑誌など)
- (イ) ラジオ番組

(2) 本日の授業の目的

2. 現代社会で必要とされる能力とは

(1) はじめに——現代日本社会とは——

人々の誰もが自分自身の人生をつくりあげることができる社会。

人々はいくつもの人生の歩み方があることを知る。

その中から自分が好む人生を選択できる機会(チャンス)を得る。

——多様な選択肢(せんたくし)のある人生を歩める社会——

但(ただ)し、何をしても自由ではない。

社会にはルールがある。ルールの中でのプレイのみが許される。

「自己責任」「自助努力」が「原則」の社会。

但し、困ったときは助け合う「相互扶助(そうごふじょ)」の「福祉社会」。

(2)現代社会の特徴と、その中で求められる3つの大切な能力(キー・コンピテンシー)とは「グローバル化」された社会。

そこでは、「多様な集団の中で交流する能力」が求められる。

(ア)「フラット化した世界(The World is Flat. ザ・ワールド・イズ・フラット)」

・人、物、お金、情報の移動がどんどん速くなる

(イ)多様性(diversity ダイバーシティ)

・生まれ育った環境

・使用する言語

・信じる宗教

・大切にしているもの(価値観)

・生活様式

これらが自分と全く異なった人々と交流することは大切な「能力」

(ウ)「英語によるコミュニケーション」は避けて通れない。

「知識基盤社会」。

そこでは、「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」が求められる。

(ア)「知識」の中で最も大切なものは、小学校、中学校、高校、大学・短期大学・専門学校などの「学校」で学ぶ教科の知識や様々な活動を通して身につけたこと。

(イ)「情報」で大切なのは、コンピュータを使いこなせること。

(ウ)「技術」で大切なのは、高度な「専門性」「専門技術」。

(エ)これらを「相互作用的に」用いることは大切な能力。

(オ)世の中で必要とされる「知識」は、どんどん広がって行く。広がりをもって行く。

また、どんどん深化して行く。深さをもって行く。さらに、これに加えて、どんどん複雑さを増して行く。そこで、学校で一度学んだことを基礎にして、社会に出てからも一生涯学び続けることが求められるのが、知識基盤社会の特徴。

(カ)そこで、現代社会では、「教育ある人(Educated Person エデュケイティッド・パーソン)」とは、一生涯「勉強し続ける人」をいう。

「超高齢化社会」「資源の限られた社会」。

そこでは、「自律的に活動する能力」が求められる。

(ア)「高い志(こころざし)」をもつこと。

(イ)「持続する志」が、超高齢化社会で「いつまでも若々しく生きる」ために必要。

・「自律的に活動する」とは

・自分自身を律(りっ)すること、抑制(よくせい)すること、コントロールすること。

・行動は自由。

しかし、社会の中にはルールがあることを学ぶ(「理解」した上で、「身につける」)こと

- ・「躰(しつけ)」...('美しい立居振舞(たちいふるまい)')と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」を身につける。)
- ・「道徳」...('自分にとって感情を害することは相手にもしない')
- ・「法律」...('刑罰をもって罰せられる犯罪行為はしない')
(損害賠償をもって償う不法行為はしない)

- *そこで、何が「躰(しつけ)」か、何が「道徳」の内容か、何が「法律」の内容かを「学ぶ(よく「理解」した上で「身につける」)」ことが求められる。
- *また、自分のもつ「権利」とともに、自分以外の人「権利」も「学ぶ」ことが求められる。

(ウ)「批判的思考能力(critical thinking クリティカル・シンキング)」をもつことが大事。

- *「現実」とは何か。「理想とする姿」とは何か。
どのように「現実」を「理想」に近づけていけばよいのか。

- ・何が問題なのか
- ・何が本当の原因なのか
- ・とりあえずどうすればよいのか
- ・ゆくゆくはどうすればよいのか

(エ)「超高齢化社会」、「限られた資源の社会」で目指すべきは、「持続可能(じぞくかのう)な社会」。

3. このような現代社会で必要とされる3つの大切な能力を身につけるためには...

(1)「学び方を学ぶ」能力を身につけること(Learning To Learn ラーニング・トゥ・ラーンのスキル、能力)。例えば、私は、学習(学ぶこと)を3つのステップに分けて、各々にふさわしい学び方を考えた。そして、これに「学習の3段階理論」という名前をつけた。

第1ステップは、「理解」(うんなるほどと納得すること、よくわかること)。

(ア)「理解」をするために、先生の授業を先生の目を見てよく聴く、授業に積極的に参加する。

(イ)必要なことは、ノートにメモをどんどん取り続ける。手が痛くなるくらいメモを取り続ける。

*ノートは、「定着」しやすいように必ず「整理」しておく。

(ウ)欠席・遅刻・早退・居眠り・携帯・おしゃべり(私語)・ポーツとしていることはしない。

*これらはすべて自分や他人の「理解」の妨げになる。

(エ)「理解」は一人でもできる。わからない語句は、「辞書」や「参考書」でよくわかるまで、納得するまで調べる。調べたことは、どんどんノートにメモをしておく。学校や自治体、その他の「図書館の使い方」を身につける。

(オ)いくら考えても、また、調べてもわからないことは、先生に「質問」する。

*但し、質問する前に自分でよく考える。よく調べることが大事。

第2ステップは、「定着」(「授業」や「自習」で一度うんなるほどと「理解」したことを、スミからスミまで覚え、完全に身につけること)。

(ア)何も見ないでスラスラ正確に言えるようにする。

*そのために、声を出して読む「音読(おんどく)練習」を何十回、何百回もすること。

(イ)何も見ないで正確に書けるようにする。

*そのために、楷書(かいしょ)で正確に書けるまで「書き取り練習」を何十回、何百回もすること。

(ウ)計算問題や練習問題は、問題を見た瞬間(しゅんかん)に条件反射(じょうけんはんしゃ)でパツ、パツと正解がでるまでやること。できれば、同じ問題は6回以上すること。

(エ)これら「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」を「定着」のための「三大練習」と私は呼んでいる。

第3ステップは、「応用」(役に立つこと)。

(ア)「確認テスト」や「定期テスト」など出題範囲(テキストや問題集のページ)が決まっているテストでは「満点」がとれること、入学試験や採用試験、国家試験、資格試験では「合格点」がとれること。*そのためには、「過去に出題された問題」や「予想問題」を5年分以上(5回分以上)、自分の力で解いてみること。「同じ年の問題」を3回~5回やり直してみること。

(イ)社会に出て役に立つこと。(実際の生活や活動で、「理解」した上で「定着」したことが使いこなせること)

*「自動車の運転免許証」を例に考えてみよう。

この「学習の3段階理論」を身につけることは、「学び方を学ぶ」能力を身につけることの一つの例。別な方法もたくさんある。学校で学んでいる間に「自分なりの学び方」を身につけよう。「自己学習能力」を自分の力で育成しよう。

*学び方(「理解」したことを「定着」させ、それを「応用」する方法)に関心を持ち続けよう。「学び方を学ぶ」スキル、能力は、自分の大切な能力の一つと考えよう。

(2)「読書(本を読むこと)」で、「熟慮」、「熟考」、「思慮深さ」、「省察(しょうさつ)」する力を身につけること。

「文字に書いてあることを読んでわかる能力」を、「識字(しきじ)能力」という。これは生きていく上で欠かせない。

「本」としてまとまっている内容を読んで、著者が読者に伝えたいことを「理解」することは、知識や知恵を身につけるだけでなく、いろいろな人の生き方や考えを知ることになり、生きていてよかったと人生の喜びになることもある。

学校の教科書にでている本、「図書館」にある本の中から、読んでみたい本を見つけるとよい。学校の先生や「図書館司書」の先生に相談するとよい。

読んでいてこれぞという本は、1回だけでなく、2~3回、できれば5~6回、期間をずらして読むこと。何回か読むうちに、「ああ、これはこういうことだったのか」と「理解」が深まることが多い。

「速読」もよいが、大切と思われる本は、腰を落ち着けてゆっくり「熟読」、「精読」してほしい。もしできれば、文字に書いていないことで作者が言いたいことを読み取ってほしい。「行間を読むこと(Read Between Lines リード・ビトウィーン・ラインズ)」も大切。読んでいて気に入ったことは、たとえ1行でもよいから「書き抜き読書ノート」にメモをしておくことをお勧めしたい。この「書き抜き読書ノート」を年に何回か折に触れて「音読」や「黙読(もくどく)」すると、自分自身のもの(「人格の基礎」)になることもある。

(3)「新聞を読んで考える」ことで、「批判的思考能力(ひはんできしこうのうりょく)」を育てること。—「新聞を読んで考えよう」—

ものごとを自分の頭で考えるには、新聞を考えながら毎日1時間位読むことをお勧めする。

「新聞は社会の番犬(watch dog ウォッチ・ドッグ)」という考え方がある。社会で起こる事件や出来事の中で新聞記者が問題だ、大事だと考えることを新聞社が編集して読者に示すことで、社会の発展を果たそうというのが新聞社の社会的使命(mission ミッション)。読者は新聞を読み、この社会は果たしてこれでよいのかということを考える材料を手に入れることができる。

但し、この国をどうしよう、この自治体をどうしようと、選挙などを通じて最終的な判断をするのは国民やそこに住む人々。

社会の出来事としてどのような犯罪が発生しているのかも、新聞には書かれている。「オレオレ詐欺(さぎ)」が何であるかを知れば、その被害者になることも少ない。

*目の前で発生していることやこれから発生するかもしれないことについて、自分の頭で考えて対処する能力を身につけるのに、「新聞を読んで考える」ことは役立つ。

関心のある記事は、切り抜いて「スクラップブック」にはっておくことをお勧めする。(但し、スクラップは、家族全員が読み終えて、保護者の許可をもらってからすること。)新聞社によって、社会に対する考えは異なることを知ることが大切。

*そこで、時々、いつも読んでいる新聞ではないものを図書館などで読んでみよう。

*外国の新聞も読んでみよう。

注意しなければならないことは、新聞に書いてあることは、その新聞社が大切だと考えていることだということ。新聞社の社会に対する考えをまとめて示しているのが新聞だということを知ること。

4. 努力は果たして報(むく)われるのか。

(1)スポーツなどの競技は、練習方法を工夫した上で練習を積み重ねたり、ルールをよく知るなどの努力をすれば、どんどん上手になる。努力は報われるといえる。しかし、試合になると、上には上がいるもので、どんなに努力してもいつまでも勝ち続けることは少ない。(部活動を考えてみよう)。

(2)人の一生も同じで、努力をすれば、このようにしたい、このようになりたいということが、現実になることはある。しかし、すべての希望が現実になることは少ない。

(3)その意味で、努力は報われることもあるが、報われないこともあると私は考える。

但し、大切なことは、「よく生きよう」と生涯にわたって努力し続けること。つまり、「学び続ける」ことと考える。

(4)そこで、自分にとって「よく生きる」とは何かを考えることは大切。できれば、何のために生きるのか、何のために働くのかなどを自分なりによく考えた上で学び続けるよう心がけよう。何のために高校に進学をし、高校では何を学ぼうとしているのかを自分なりに考えると素晴らしい。

(5)では、中学3年生として今やらなければならないこととは何かを考えてみよう。

何のために高校に進学をして、何を学ぶのかをはっきりと考えた上で、全精力を傾けて入学を希望する高校に合格するために学ぶこと。

このように、ものごとに取り組むときには、ただやればよいというのではなく、やっていることの目的を考えることが大事である。高校入試の受験勉強をするときも、勉強する目的を考えることが大事である。

高校入試に向けての勉強は、世の中に出てすべて必ず役に立つものばかりだ。なぜなら、小学校・中学校で学ぶべき内容がすべて出題されるからだ。9年間の義務教育の総まとめ、仕上げをするつもりで、高校入試の勉強をするとよい。

自分の未来は、自分で切り開く。自分の行動は自分で責任を持つ(自己責任)。自分の身は自分で助ける(自助、self-help セルフ・ヘルプ)。苦しいかもしれないが、これらを知るのも受験勉強のよい点かもしれない。

自分のよさを知り、自分のよさを伸ばすこと。自分のよさと一緒に、家族、友達、クラス、先生、日本、アジア、地球のよさ、素晴らしさを知る努力をすることも大切。

* 各々の問題点を見つけ、解決することも大切。

5. おわりに—私の好きな言葉—

- (1) 「一生勉強、一生青春」 * 足利市在住の書家、相田みつを先生
- (2) If you can dream, you can do it!
(もしあなたが夢をもつことができれば、あなたはそれをすることができる)
* アメリカ・ヒューストンの宇宙技術者の合言葉
- (3) 「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心に取り組む)
* 足利高校マラソン大会の合言葉
- (4) 「よいことをして忘れる」 * 京都一燈園、石川洋先生
- (5) 「目には遠いが、心は近い」 * インドのことわざ
- (6) 「ブルドック魂」(食いついたら離すな)
* 足利市立山辺中学校 3年クラス担任、岡田忠治先生
- (7) 「練習で泣いて、試合で笑え」 * 足利市立山辺中学校柔道部監督、椎名弘先生
- (8) 「練習は不可能を可能にする」 * 慶應義塾、小泉信三先生
- (9) 「注意一秒、ケガ一生」 * 慶應義塾大学法学部法律学科、宮沢浩一先生
- (10) 「いつまでも若々しく生きる」 * 中村天風先生
- (11) 「教育ある人とは勉強し続ける人」 * ドラッカー先生
- (12) 「健康第一。心の健康、身体を大切に」 * 林 明夫

Q：皆様の好きな言葉は何ですか。3つ書いてみましょう。

(1)

(2)

(3)

Q：質問や意見，感想があったら書いてみましょう。

(1)

(2)

(3)

以上

－御清聴を感謝いたします－

(2008年10月30日ベトナムのハノイにて記す。)